

年報

2023 年度

筑波大学大学院 人間総合科学学術院
人間総合科学研究群 看護科学学位プログラム

目次

I. 看護科学学位プログラムの組織運営	1
1. 看護科学学位プログラムの目的、教育目標	1
2. 看護科学学位プログラムの沿革	3
3. 看護科学学位プログラムの組織	5
4. 看護科学学位プログラムの施設・設備	11
II. 教育活動	14
1. 教育内容及び方法	14
2. 自発的な教育活動	15
3. 教育の成果と教育の質の向上及び改善のためのシステム	15
4. 大学院教務・看護科学事務の支援体制	19
III. 研究活動	22
1. 教員・学生の個人業績	22
IV. 大学院生支援	45
1. 学生数の状況	45
2. 大学院生支援委員会の活動	45
3. 今後の課題	48
V. 社会貢献と国際交流	50

I. 看護科学学位プログラムの組織運営

1. 看護科学学位プログラムの目的、教育目標

1) 看護科学学位プログラム博士前期課程および博士後期課程の理念と目的

看護科学学位プログラム博士前期課程では、学際的及び国際的な視点に基づき、看護を科学的に探究する人材を育成することを目的とします。博士前期課程では科学的な根拠に基づいて看護の指導的な役割を担う教育者・研究者を目指す学生および看護の実践能力および高度な専門性を有する看護の高度専門職業人を目指す学生を求めています。

看護科学学位プログラム博士後期課程では、看護学の高度専門職者・管理者、教育者・、政策・行政分野の看護・医療の専門家として専門的知識、技術を有するに留まらず、常に研究マインドを持って看護実践を検証していくことのできる能力を育成します。さらに、看護の専門領域だけではなく、「学際性」と「科学性」に基づく新しい看護の技術や教育・研究方法を開発できる能力を育成します。博士前期課程で養った看護実践能力や研究能力を活かし、さらに次代に向けて必要となる新たな知識の創造と、技術開発の基礎研究者となる教育・研究方法などについて体系化できる力を備えようとする教育者・研究者、あるいは、看護科学の基礎的な能力を修めた者で、実践と理論の架け橋となるための高度専門看護者・管理者、行政官を目指そうとする者を求めています。

2) 看護科学学位プログラム博士前期課程の特色と教育目標

看護科学学位プログラム博士前期課程では、教育目的を達成するために、修了後の進路に対応した以下のプログラムを設定します：①博士後期課程への進学に向けて研究基礎力を育成する看護科学プログラム、②高度な教育・実践能力を持つ助産師を育成する助産学プログラム。

博士後期課程への進学に向けて研究基礎力を育成する看護科学プログラムでは、筑波大学大学院学則で規定する課程の目的を踏まえ、看護科学の領域で、社会的学術的意義が高く、看護科学の発展に寄与できる研究を実践できるよう、

以下の能力を育成します。

- ① 科学的根拠に基づいて看護を探究し、実践する能力
- ② 看護科学の基礎になる専門知識と技術をもって看護を実践・教育する能力
- ③ 看護を学際的な視点から科学的に分析する能力
- ④ 豊かな感性と確かな倫理観に基づく看護の実践能力
- ⑤ 国際的な看護実践を志向する能力
- ⑥ 国際水準の看護研究の成果を自らの実践に活かす能力

高度な教育・実践能力を持つ助産師を育成する助産学プログラムでは、筑波大学大学院学則で規定する課程の目的を踏まえ、助産学分野における高度専門職業人として十分な教育・実践能力を身に付けられるよう、特以下の能力を育成します。

- ① 科学的根拠に基づいて助産を探究し、実践する能力
- ② 看護科学の基礎になる専門知識と技術をもって助産を研究・実践する能力
- ③ 助産を学際的な視点から科学的に分析する能力
- ④ 豊かな感性と確かな倫理観に基づく助産の実践能力
- ⑤ 国際的な助産実践を志向する能力
- ⑥ 国際水準の助産研究の成果を自らの実践に活かす能力

3) 看護科学学位プログラム博士後期課程の特色と教育目標

看護科学学位プログラム博士後期課程では、教育目的を達成するために、筑波大学大学院学則で規定する課程の目的を踏まえて、看護科学の領域において博士の学位に相応しいだけの新規性、独創性と十分な学術的価値のある学位論文を提出できるよう、以下の能力を育成します。

- ① 看護実践の基盤になる科学的根拠を創出する研究能力
- ② 看護に関する高度な知識と技術力
- ③ 高度専門職者としての実践知に基づく教育・研究能力
- ④ 確かな倫理観と価値基準に裏付けられた研究能力
- ⑤ 国際水準の研究能力

2. 看護科学学位プログラムの沿革

1) 博士前期課程の沿革

平成 15 年度に筑波大学は、看護短期大学から看護・医療科学類として 4 年制大学になりました。平成 18 年度に看護・医療科学類が完成年度を迎えるにあたり、大学院進学を希望する学生の受け皿となり、専門性を高める看護の大学院として、また茨城県内の看護系大学生および看護師からの強いニーズに応えるため、平成 19 年 4 月に人間総合科学研究科に設置されました。

社会的なニーズに応えるために「人間の生物身体的・教育福祉的・精神文化的の 3 側面を視野に入れながら人間に関わる総合科学の確立を目標」としている筑波大学大学院人間総合科学研究科があります。その一専攻として設置された看護科学専攻は、従来の看護学が追求してきた「科学性」のみならず、看護学と他の融合可能な学問領域との学際融合を図り「人間の総合性」を「次代を担うエビデンスの思考に立つ新たな科学」の視点に立つ「専門性」を取り入れ、「実践看護学領域」「地域健康システム看護学領域」「環境看護学領域」の 3 領域で教育が始まりました。

看護においては人々の QOL の向上を目指した、より専門的な知識と高度な看護技術、科学的根拠に基づいた的確な判断力を有した高度専門職業人の育成が求められ、平成 22 年度から専門看護師教育課程に関する科目の開講を始めました。平成 23 年度には「がん看護」「精神看護」、平成 24 年度には「慢性看護」が、専門看護師教育課程として日本看護系大学協議会より認可を受けました。専門看護師教育においては、積極的に e-learning を導入し、対面講義・演習との組み合わせにより、教育内容の拡充に努めてまいりました。また、平成 23 年度に専門看護師教育課程以外の科目についてのカリキュラム改正を行い、設置時の「実践看護科学領域」「地域健康システム看護学領域」「環境看護学領域」の 3 領域から、「実践看護学領域」「地域環境システム看護学領域」の 2 領域に再編しました。平成 26 年度より高度実践看護教育のさらなる充実を図り、「家族看護」の専門看護師教育課程を追加し、日本看護系大学協議会より「がん看護」「精神看護」「慢性看護」「家族看護」の 4 分野において専門看護師教育課程(38 単位)の認定を

受けました。また同年より、学生の研究力と教育力を強化することを目指し、助産師教育課程を学士教育から大学院教育に移行し（文部科学省認定）助産師養成教育を提供しています。

平成 29 年度には、前期課程内に、修了後の進路に対応したプログラム：①博士後期課程への進学に向けて研究基礎力を育成する看護科学プログラム、②専門看護師としての臨床実践能力を育成する高度実践看護プログラム、③高度な教育・実践能力を持つ助産師を育成する助産学プログラムを設定し、運営を開始しています。令和元年度から 1 科目あたりの受講者数を増やし、学習の充実を図るため「実践看護学領域」「地域環境システム看護学領域」の 2 領域をなくし、看護科学として 1 つの専門領域にしました。

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 看護科学学位プログラムへの改変

令和 2 年度に筑波大学では大学院改革が行われ、8 研究科、85 専攻であった大学院は、3 学術院、6 研究群、56 学位プログラムより成る大学院に改変されました。人間総合科学研究科 看護科学専攻は、人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 看護科学学位プログラムとなりました。再編の目的は、各研究群では専任の教員を中心とした幅広い学問分野の教員が協働して学位プログラムの授業と研究指導を行うことにあります。また、学位授与時に学生が備えるべき知識・能力（コンピテンス）を、全学で共通の汎用カコンピテンスと、各学位プログラムに特有の専門カコンピテンスの双方から明確化し、その修得に向けた教育課程を編成しました。学生の達成度評価にあたっては、学会発表や論文作成、TA の経験やボランティア活動を含め、授業以外の活動も積極的に評価します。また学生が修了するまでに汎用カコンピテンスと専門カコンピテンスを修得できるよう、きめ細かな学修支援を行うことになりました。令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、春学期は教育活動が制限されましたが、秋学期からは対面、オンラインを含めたハイブリッドの授業を行い充実させることができました。

看護科学専攻は、令和 2 年度までに博士前期課程 188 名の学生を修了させました。看護科学専攻は、令和 4 年度に修了生 1 名を輩出することにより、教育課程

16 年間の幕を閉じました。看護科学学位プログラムとなった令和3年度から令和5年度においては、新たに37名の学生が修了しました。またこれまでに21名の修了生が専門看護師試験に合格しています。しかしながら、諸般の事情により専門看護師養成課程の募集を令和6年度より終了することとなりました。

看護科学専攻ならびに看護科学学位プログラム博士前期課程修了生は、保健師、助産師、看護師、養護教諭あるいは大学教員として活躍しています。

2) 博士後期課程の沿革

国際的レベルの教育・研究の拠点となることを目的として、平成13年に「人間総合科学研究科」が開設され、この人間総合科学研究科に平成19年4月に看護科学専攻博士前期課程が、前期課程の開設に引き続き、平成21年4月に看護科学専攻博士後期課程が誕生しました。平成26年度からは、文部科学省「未来医療研究人材養成拠点形成事業」の中で地域基盤型高度実践看護師コースを開講し、博士後期課程における高度実践看護師の育成を開始しました。

令和2年度に行われた筑波大学大学院改革により、博士後期課程においても令和2年度より看護科学学位プログラムの入学生の受け入れを開始しました。

看護科学専攻は平成25年度3月に初めて修了生が誕生し、博士(看護科学)が授与されました。以降、博士(看護科学)の授与は、2名の論文博士を含め、令和5年度3月までに看護科学専攻から49名、看護科学学位プログラムから3名、計52名となり、看護科学専攻ならびに看護科学学位プログラム博士後期課程の修了生は厚生労働省をはじめ日本のさまざまな保健医療分野で将来有望なリーダーとして活躍しています。

3. 看護科学学位プログラムの組織

1) 教務委員会

履修・渉外(担当:大宮、岩田、水野智、涌水、福澤)

1. 科目一覧の管理、次年度科目一覧作成依頼
2. 時間割作成

3. シラバスの管理、次年度シラバスの作成依頼
4. 大学院便覧・大学院スタンダードの確認
5. 既修得単位認定(なし)・学籍管理(副指導教員変更、研究生等)
6. 次年度 学群生、科目等履修生一覧の管理
7. 修了認定(前期・後期)用資料の作成
8. 協力教員、非常勤講師、ゲストスピーカーに係る調整
9. 在校生オリエンテーションの企画・実施
10. 実習科目の進捗状況とINFOSS 受講状況の確認・管理
11. 教学マネジメントに係るプログラムレビュー対応
12. 学術院共通専門基盤科目の検討

審査(担当:目、菅谷)

1. 研究計画書(前期・後期)審査委員会案の作成
2. 予備審査委員会(前期・後期)案の作成
3. 論文審査委員会(前期・後期)案の作成
4. 研究計画書(前期・後期)審査会・発表会の実施
5. 修士論文発表会(前期)の運営
6. 研究計画書(前期・後期)審査報告書の確認
7. 予備審査報告書(前期・後期)の確認
8. 論文審査報告書(前期・後期)の確認
9. 審査スケジュール(前期・後期)案の作成
10. 教学マネジメントに係るプログラムレビュー対応

2)入試委員会

令和5年度の入試委員会の活動は、博士前期課程、博士後期課程の入学試験の実施とそれに伴う各種業務を遂行した。本学位プログラムの入試実施体制のなかで、出題ミス予防に向けた基準等を遵守し、適正かつ公正である入学試験となるよう入学試験を実施した。

令和5年度入試は、新型コロナウイルス等の感染拡大防止に留意しながら実施

した。大学からの留意事項(以下)を受験者に示した。

【試験会場への入構に係る留意事項】

1. 試験日の10日前までに新型コロナウイルス感染症の検査で陽性となった場合は、居住地で示されている療養期間を目安(以下を参照)に入構等の判断をしてください。
 - ① 療養期間の目安(発症後5日間、かつ症状軽快後24時間が経過するまで)を経過していない場合は、今回の受験を見送る等の検討をお願いします。
 - ② 療養期間が経過している場合は入構に支障はありませんが、発症後10日間が経過するまではマスクの着用をお願いします。
2. 試験当日、発熱、咳、咽頭痛、頭痛、倦怠感などの感冒症状がある場合は、今回の受験を見送る等の検討をお願いします。

【試験当日の注意事項】

1. 咳等の症状がある場合は、試験当日にマスクの着用をお願いします。
2. 試験会場内において咳を繰り返すなど体調不良の症状がみられる方には、座席または試験室を移動していただくことがあります。
3. マスクの着用については個人の判断となりますが、状況によっては試験会場において指示が出される場合がありますので、できるだけマスクの持参をお願いします。

＜令和6年度入学試験の実施状況＞

令和6年度入学試験は、8月期と2月期に本試験を実施した。

● 博士前期課程

8月期入試 筆記試験 令和5年8月24日、口述試験 8月24日

2月期入試 筆記試験、口述試験 令和6年1月30日

			志願者 数	受験者 数	合格者 数	外国人留学生 内合格者数
募集 人員 (15名)	8月期 入試	一般	16	15	11	0
		社会人	1	1	0	0
	2月期 入試	一般	0	0	0	0
		社会人	1	1	1	0

● 博士後期課程

8月期入試 筆記試験 令和5年8月24日、口述試験 8月24日

		志願者 数	受験者 数	合格者 数	外国人留学生 内合格者数
募集 人員 (8名)	8月期入試	3	3	3	1
	2月期入試	0	0	0	0

<その他の活動>

- ・留学を希望する外国人には、オンラインに於いて積極的に事前面接を実施した。

<次年度に向けた課題>

博士前期課程、後期課程ともに募集人員に満たないため、次年度は受験者数の増加に向けて、ポスター、パンフレット、Web ページを通じて積極的に広報を行うことにより、看護科学学位プログラムのアドミッション・ポリシーに見合う志願者を集めることとする。博士前期課程では、本学の看護学類生の進学者数の増加を目的に、有効な広報活動等について検討する必要がある。また、博士後期課程では、研究者、教育者や高度看護実践者の育成を目的に、本学博士前期課程からの進学者を推奨するとともに、広報活動等についても検討したい。

3) 広報・情報委員会

■今年度の活動目標

看護科学学位プログラムの入試について、ポスター、パンフレット、Web ページ

を通じて広報を展開する。

看護科学学位プログラム関係者（授業担当教員および学生）の Web ページを通じての情報活用を支援する。

■活動状況

＜看護科学学位プログラムホームページの更新＞

ホームページ（HP）日本語版および英語版の一部内容を修正し、外部者用・内部者用にそれぞれ内容を精査し、更新した。行事関連写真の追加、ニュースの提供など、迅速な更新に注力した。

＜入試説明会の開催＞

令和 5 年度看護科学学位プログラム入試説明会を 2023 年 6 月 16 日に開催した。参加者数合計は 122 名であり、令和 4 年度の 64 名を大きく上回った。参加者の所属は、有職者 11 名、学類 2 年生 16 名、学類 3 年生 73 名、学類 4 年生 7 名、学生（他大学含む）15 名であった。カリキュラムの説明、入試に関する説明のほか、助産師養成課程の説明、在校生のメッセージ（博士前期、助産師養成課程、博士後期）、国際交流と協定校、各研究室の紹介を行った。終了後、希望者に対して研究室訪問を実施した研究グループもあった。

入試説明会に関する情報の入手方法（重複回答可）では、「教員からの情報提供」93 件、「ホームページ」26 件、「友人・知人・先輩からの情報提供」7 件、「メーリングリストからの情報提供」2 件、「ポスター」2 件であった。受験に際し参考になった項目（重複回答可）では、「在校生のメッセージ」89 件、「研究領域紹介」75 件、「助産師コースの説明」60 件、「入試に関する説明」48 件、「長期履修制度の説明」16 件が挙げられた。参加者からの希望として、「研究領域をもっと詳しく説明して欲しい」「入試の出題傾向」「筑波大学を選んだ理由（在校生メッセージ）を知りたい」「卒業後の進路を知りたい」などの記述があった。

■目標の達成度、次年度に向けた課題

次年度以降もオンラインでの入試説明会を実施する予定である。例年、「在校

生メッセージ」は好評なので、企画内容は継続していく。また、大学院修了後の進路の紹介や、研究領域紹介の時間を増やすなど、より本学学位プログラムの特色を鮮明に打ち出していく必要性も考えられる。さらに、今後も看護学類からの進学希望者を積極的に開拓するために、指導教員の顔が見える口コミによる広報活動を各教員が地道に行っていくことが効果的であると思われる。

■目標の達成度、次年度に向けた課題

学外への有効的な情報発信をおこなうため、引き続き HP の充実を図っていく。同時に看護学類の優秀な卒業生を確保し続けられるよう、各教員が内部学類生への勧誘と広報を強化していく。他大学大学院の動向から、もう少し早い時期に大学院説明会を開催するということも検討していく必要がある。

入試に関しては、次年度も事前予告情報を早めに流していく。在学生確保の重要度は高いので、定期的に在学生のメーリングリストにも働きかけていく。

4)FD・自己点検評価委員会

本学位プログラムにおける FD 活動は、先駆的な看護研究及び教育を行なっている海外との学術協定校等との交流を通して、教員の教育力の向上と先進の取り組みを学ぶことにある。また、近年の組織構成員の再編成に伴い、教育・研究活動のリンケージ及び優れた研究成果の発信、より発展的な組織運営が喫緊の課題であると考えられる。

令和 5 年度は、少数精鋭の教員が卓越した研究・教育活動を行っていくために、レジリエントな組織について教員全体が学び、より良い研究グループの運営や大学院生指導とコミュニケーション活性化を目指して、2 回シリーズの FD 活動を行った。

第 1 回目は、医学医療系の道喜将太郎先生を講師として、レジリエントな組織作りに関する海外情勢も踏まえた最新の知見を踏まえ、限られた教員リソースで教育効果を上げる方法について講義を聴講した。第 2 回目は、1 回目で学んだ知識を実際に活かしていくために、医学医療系の笹原信一朗准教授によるセミナーを行い、続いて教員間における多様性の視点の持ち方/コミュニケーションの

活性化を目的とした講義と教員間ダイアログ(対話演習)を行った。第1回目・第2回目ともに、参加教員の満足度は高く、自由回答でも参加意義があったことが確認された。

今後も、より一層の組織構成員メンバーの結束の強化や、組織としてのビジョンとミッションの定着を狙ったFD企画を開催していく。同時に、参加人数が全員に近い数になるよう、周知を徹底し、企画内容によっては、大学院生も巻き込んで、参加を促進するようにしたいと考えている。

授業評価に関しては、全学共通のTWINSを用いたオンラインで全科目において実施し、学生からの評価を教員にフィードバックしている。今年度も全科目でフィードバックを行った。また学生からの評価を元に、カリキュラムや授業内容の検討を行い、いくつかの科目内容の改善や開講時期変更に向けての検討も実施した。

COVID-19による渡航制限等の解除も進む中、積極的に海外の提携大学ともつながりを深めていくとともに、教員の教育力の向上につながるようなFD活動の企画運営を進めていく。

5) ICT・国際活動委員会

令和5(2023)年5月8日から新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に移行したことにより、今年度は対面での国際交流が久々に実現した。5月22日(月)には台湾成功大学(NCKU)からヘルスケア領域の教員が来訪し、ミニシンポジウム「Joint Mini-Symposium: National Cheng Kung University and University of Tsukuba」を開催した。また、NCKU教員3名(看護2名、作業療法1名)と本学医学医療系の看護教員5名とで今後の国際交流について話し合い、教員間での共同研究の可能性、大学院生の副査としての相互交流の可能性があることの共通認識を得た。8月7日にはNCKUのMei-Feng Lin看護学部長が再来日し、本学の看護教員3名と研究ミーティングを実施し、大学院授業をオンライン授業として相互に担当すること、短期留学プログラムの受入れ、国際共同研究の可能性について話し合った。その後、NCKUの博士後期課程の授業(Scholarly Inquiry in Nursing Profession)の1コマを本学の看護教員が

担当・実施した(11月3日)。また、複数の国際共同研究の申請につながっている。さらに、次年度の短期留学生の派遣の調整を行っているところである。

令和6(2024)年2月4日から10日までの7日間は、国立研究開発法人科学技術振興機構に採択された、さくら招へいプログラムを実施した。「母子保健を中心とした看護分野における日本の先端技術について学ぶ体験交流」というテーマのもと、ガーナからの看護学生4名と教員2名の合計6名の招へい者と交流した。本学からは、看護学類生、看護科学学位プログラムの大学院生、看護教員が参加した。本プログラムは、講義や演習、保健医療施設の見学などから構成されており、日本の研究者・学生等との交流体験を通して、看護分野における継続的な国際交流を促進することをねらいとした。招へい者からは、「日本の科学技術についての理解が深まった」「日本の大学への留学を希望する」などのフィードバックが得られた。また、参加した本学の学生からは、「国際的な視野や経験」や「海外留学への関心」などの力が向上したというフィードバックを得た。ガーナとの国際交流を今後も進めていく予定である。

次年度は、今年度の国際活動を継続・促進する方向で、短期留学生の送りだしと受入れ、ICTを活用した国際活動、国際共同研究、TGSW(TSUKUBA Global Science Week)でのコラボレーションなどを計画していきたい。

(以下実施した企画)

2023年5月22日(月)

Joint Mini-Symposium: National Cheng Kung University and University of Tsukuba

2024年2月4日(日)～10日(土)

さくら招へいプログラム: 母子保健を中心とした看護分野における日本の先端技術について学ぶ体験交流

4. 看護科学学位プログラムの施設・設備

1) 施設設備委員会

施設・設備委員会は、共同利用棟 B および健康医科学イノベーション棟を中心とした研究教育環境の充実と管理運営、会議室やセミナー室など専攻に関わる諸室の調整と有効活用を目標として活動している。

■本年度の施設・設備の整備状況

看護科学学位プログラム大学院生および教員に関連する医学医療系の取り組みとして以下のものがあげられる。

1. 研究室について、使用状況、院生数等を考慮した調整を心掛けた。

■今後の課題

1. セミナー室など予約スペースの適正な利用を促進し、看護科学学位プログラムの教育・研究環境が安全に保ち充実するよう努める。
2. 共同利用棟 B 講義室の椅子や机等消耗品の老朽化が進んでいるため、適宜交換等引き続き行っていく。

Ⅱ．教育活動

1. 教育内容及び方法

R3 年 4 月より、改組前の看護科学専攻を母体とした「看護科学学位プログラム」が開設され、その教育理念のもとに組み立てられたカリキュラムを実施した。学位は、当該専攻で授与している「看護科学」を引き継いだ。

本学位プログラム（博士前期課程）では、看護科学の領域で扱われる課題で研究を行う研究者の養成を目指している。また、高度専門職者の養成課程として、助産師養成課程を提供している。いずれの課程でも科学的根拠に基づいた探究力、専門領域における実践力、看護の学際性、看護の感性与倫理観、国際通用性を目指す実践力を学生に修得させることで、看護実践の基礎になる専門知識・技術・実践能力を備えた看護職者を養成している。学生の達成度は、修士論文あるいは特定の課題研究（看護実践に活用できるエビデンスについての検討、あるいは、エビデンスに基づいた実践内容の評価について、研究として系統的にまとめられた成果物）によって最終的に評価している。なお専門看護師養成課程は今年度で 10 年間の認定有効期間が満期を迎えたのを機に、認定の更新はせず役目を終えた。

本学位プログラム（博士後期課程）では、学際的および国際的な視点に基づき、看護学の高度専門職者、教育者、研究者、政策・行政分野の看護・医療の専門家として専門的知識、技術を有するに留まらず、常に研究マインドを持って看護実践を検証していくことのできる人材を、さらに、看護の専門領域だけではなく、「学際性」と「科学性」に基づく新しい看護の技術や教育・研究方法を開発できる人材を、養成している。

カリキュラムの詳細は、授業科目一覧と各科目のシラバスを参照

2. 自発的な教育活動

3. 教育の成果と教育の質の向上及び改善のためのシステム

＜本年度の学位論文のテーマ＞

看護科学専攻博士後期課程

曾 冬艶

Analysis and Integration of the Concept of Spirituality in the Context of Chinese Cancer Patients(中国人がん患者にとってのスピリチュアリティの概念の分析と統合)

Umami Pratiwi Rimayanti

The Development of The Indonesian Version of Ferrans and Powers Quality of Life Index© Cancer Version-III(インドネシア語版 Ferrans and Powers Quality of Life Index© Cancer Version-III の作成)

松本 宗賢

在宅障害児養育者の主観的 well-being 尺度の開発とその信頼性と妥当性の検討

看護科学学位プログラム博士後期課程

齋藤 佑見子

新生児集中治療室(NICU)におけるEnd-of-Life 家族支援看護者教育プログラムの開発と有効性の検証

海野 多栄子

産後2～3か月の初産婦におけるストレス反応に関する研究—主観的方法と客観的方法の包括的評価—

戸津 有美子

日本人女性における妊娠糖尿病と妊娠期抑うつ傾向との関連

看護科学学位プログラム博士前期課程

平城 諒子

日本における成人のトランスジェンダー当事者が直面した健康診断の際の
ポジティブ・ネガティブな経験

Lim Kahan

The effects of dietary health behaviors recommended by the Malaysian
Dietary Guideline Key Messages on the body mass index of adult
Malaysians (マレーシアの食事ガイドラインのキーメッセージで推奨されている食
事の健康行動が成人マレーシア人の BMI に及ぼす影響)

梅川 茉優里

20 歳代女性へのアニメーションを用いた骨盤底筋収縮指導における指導
前後の骨盤底筋力の比較

大嶋 恵奈

女子大学生における子宮頸がん予防行動とヘルスリテラシーとの関連

小倉 円香

家庭医が在籍する診療所における看護師の振る舞いとそれを支える組織文化

須田 祥子

末日聖徒イエス・キリスト教会の日本人高齢者が抱えるストレスと対処

戴 兆叡

一般病棟に勤務する看護師のレジリエンスと職場環境が専門職の QOL に与え
る影響

中川 結衣

オピオイド使用中の外来消化器がん患者が体験する突出痛の特徴と対処

並木 瑠理江

親をがんで亡くした子どもの体験—闘病生活から死別後までの揺れ動く気持ち—

野口 百菜

実娘である産後の母親の里帰りを引き受けた祖母の生活上の調整—祖母自身の体験と母親の体験—

林 理佳

NICU(新生児集中治療室)への入院を経て退院する医療的ケア児と家族への退院支援専従看護師等による支援に関する実態調査

平田 珠梨

月経期における吸水ショーツの着用が不快症状、健康関連 QOL および睡眠に与える影響

藤岡 朱音

妊婦体験ジャケット着用時の階段昇段時の動作分析—ヒール高による比較—

渡部 幸

集中治療室における DNAR の代理意思決定支援に対する看護師の困難感と代理意思決定者に対する患者の続柄および代理意思決定支援実践度の関連

呉 嘉慧

Relationships among Individual Resilience, Family Resilience, and Body Image in Postoperative Chinese Female Breast Cancer Patients: A Cross-

Sectional Study(中国の女性乳がん患者がとらえる自身および家族レジリエンスとボディイメージとの関連)

<FD 活動実績と今後の課題>

第 1 回 10 月 18 日(火)17:00～18:30

タイトル:レジリエントな組織とマネジメント

レジリエンス(逆境からの回復力)を身に着ける「試練と支援」の構造から考える「教育」

概要:昨今の職場のメンタルヘルス問題においては、経営環境のめまぐるしい変化のなかで多様な問題に対応できるレジリエントな組織づくりが注目されている。第一回目は、レジリエントな組織を作るために重要な概念として、1. 冗長性 2. 多様性 3. 適応性 について考える。また、現代の教育においては、「試練と支援」の構造が重要で、現代の学生気質を踏まえた上で、限られた教員リソースで効果的な教育成果をあげる方策について検討する。

講師:松崎 一葉先生(筑波大学医学医療系 産業精神医学・宇宙航空精神医学 教授)

会場:Zoom を用いた遠隔配信、その後のビデオ配信あり

参加者:看護科学学位プログラム教員、看護学類教員

主催:看護科学学位プログラム 共催:看護学類

第 2 回 2023 年 11 月 9 日(水)17:00～18:30

タイトル:職場におけるレジリエンスを高める工夫～サルトジェニック・カフェを応用する～

概要:第一回で学んだレジリエントな組織を作るための知識を実際に活かして行くために、今の職場において現実的に何ができるのかを、それぞれの経験を持ち寄り具体的な対処方法について学び合い、明日からの実践に活かせる内容を検討する。

講師：笹原信一郎 先生（筑波大学医学医療 産業精神医学・宇宙航空精神医学 准教授）

会場：Zoom を用いた遠隔配信、その後のビデオ配信あり

参加者：看護科学学位プログラム教員、看護学類教員

主催：看護科学学位プログラム 共催：看護学類

第 3 回 2023 年 2 月 22 日（水）16:00～17:30

タイトル：アクティブラーニングを実践するための課題

概要：第 1 回と第 2 回のレジリエントな組織を作るための FD を通しての振り返りを、話すことに集中するターンと聴くことに集中するターンに分けて、看護学系の今後のより良い工夫について対話を重ねることで、多様な声を響かせて行きます。話したくないことを無理に話す必要はありませんので、安心してぜひ対面でご参加ください。

参加者：看護科学学位プログラム教員、看護学類教員

会場：共同利用棟 2F 講義室 B（対面）

主催：看護科学学位プログラム 共催：看護学類

次世代看護に向けた組織作りには一定の時間をかけて丁寧に行うことが重要であるとして、令和 5 年度も引き続き同様のテーマで開催し、ビジョンとミッションの定着を狙う。今後も、組織力および教員の教育力の向上につながるような FD 活動の企画運営を進めていくことが課題である。授業評価に関しては、本年度からは TWINS を用いたオンラインでの実施とした。全科目において実施しており、学生からの評価を分析することができた。

今後も、積極的に海外との提携大学ともつながりを深めていくとともに、教員の教育力の向上につながるような FD 活動の企画運営を進めていくことが課題である。

4. 大学院教務・看護科学事務の支援体制

看護科学専攻・学位プログラムは、大学院教務ならびに看護科学事務から学生に対してさまざまな支援を受けている。主な支援内容を下記にまとめる。

＜大学院教務の学生に関する主な支援業務＞

1. 看護科学学位プログラムの入学試験
2. 学位記授与式,新入生オリエンテーション
3. 大学院生のTA関係業務
4. 外部資金申請関係(文科省等)
5. 学生の派遣・受け入れ関係
6. 非正規性受入れ関係(科目等履修生,研究生)
7. 成績管理関係
8. 非常勤講師関係
9. 学籍異動関係
10. 授業料債権関係
11. 学外実習関係
12. 専修免許関係
13. 調査・統計関係

＜看護科学事務の学生に関する主な業務＞

1. 相談対応
2. 入学時オリエンテーション準備
3. 提出物等の受け取り
4. 郵便物の配布
5. 教室予約受付・管理(共同利用棟 B103・106・107・204・205・206・207)
6. ロッカーキーの貸出・管理
7. 印刷機、備品、消耗品(トナー・インク等)の管理
8. TA 任用に関する手続き・管理
9. 学外実習に関する手続き・管理
10. 一斉メールの配信:主に大学院教務,学生支援からの依頼による学生への配信

11. 各発表会、審査会サポート
12. 入試の準備・手伝い
13. 学位記授与式の準備・手伝い
14. 予算管理
15. 看護科学学位プログラム HP 管理補助

Ⅲ. 研究活動

1. 教員・学生の個人業績

※教員の個人業績については TRIOS 参照

<http://www.trios.tsukuba.ac.jp/scripts/websearch/index.htm>

A. ウィメンズヘルス看護学・助産学研究グループ

■教授 岡山久代

■准教授 岩田裕子

□看護科学学位プログラム 博士後期課程 3 年 海野多栄子

< 論文 >

- 1) Taeko Unno, Eriko Terasawa, Kiyoko Naito, Mayuko Niida, Yoshihiro Asano, Hisayo Okayama. (2023). Effectiveness of an educational intervention for postpartum depression in a pre-parent classroom. Open Journal of Nursing, 13(8), 455-486.

< 学会発表 >

- 1) Taeko Unno, Hisayo Okayama. (2024). A literature review on the correlation between anxiety, depression, stress, and heart rate variability in perinatal women. 27th East Asian Forum of Nursing Scholars, Hong Kong, China.

< 競争的資金獲得状況 >

- 1) 海野多栄子. (分担者: 岡山久代, 浅野美礼). 2022～2024 年度, 基盤研究 C. 乳児を育てている母親のストレス反応の可視化 -短期的・長期的心拍変動による評価-.

□看護科学学位プログラム 博士後期課程 3 年 今野和穂

< 学会発表 >

- 1) Konno, K. (2024). Concept Analysis of “Menopausal Symptoms”

from the Perspective of Japanese Women Experiencing Menopause.

27th East Asian Forum of Nursing Scholars. Hong Kong. China.

<競争的資金獲得状況>

- 1) 今野和穂. (分担者:岡山久代). 2023～2025 年度, 基盤研究 C. 閉経移行期症状のセルフアセスメントシートの作成と妥当性の検証.

<研修会の講演>

- 1) 今野和穂(2023). 日本更年期と加齢のヘルスケア学会 オンライン研修会基礎講座「女性の身体 解剖と生理」

<社会活動>

- 1) 東京都中央区健康チェック ママの健康チェック プレ更年期担当

<公的な委員会>

- 1) 更年期と加齢のヘルスケア学会幹事

□看護科学学位プログラム 博士後期課程 3 年 壹岐聡恵

<学会発表>

- 1) 壹岐聡恵, 岡山久代. (2023). 障害児における月経管理の現状～生理用品開発に向けての文献検討～. 第 11 回看護理工学会学術集会, 兵庫, 日本.
- 2) 壹岐聡恵, 岡山久代. (2023). 日本における障害児への月経教育についての文献検討. 第 42 回日本思春期学会学術集会, 東京, 日本.
- 3) 塩見咲良, 鳥居万椰, 村上貴人, 寺澤瑛利子, 壹岐聡恵, 平田珠梨, 落合陽一, 金澤悠喜, 岡山久代. (2023). 妊婦体験ジャケット着用時の姿勢・歩容・腰部負担感の分析ーヒール高による比較ー. 第 11 回看護理工学会学術集会, 兵庫, 日本.

<その他>

- 1) 令和 5 年度 人間総合科学学術院・研究科 TF 優秀賞受賞

□看護科学学位プログラム 博士後期課程 3 年 寺澤瑛利子

<論文>

- 1) Eriko Terasawa, Hisayo Okayama. (2023). Assessment of depressive tendencies in mothers with infants at 1 month. postpartum and later: a validation study of the Whooley questions. Japanese Journal of Perinatal Mental Health, 9(1), 77-86.
- 2) Eriko Terasawa, Yoshihiro Asano, Makiko Aoki, Hisayo Okayama. (2023). Relationship between stress status and smartwatch-measured stress indicators in postpartum women: a pilot study. Journal of Nursing Science and Engineering, 10, 194-203.
- 3) Taeko Unno, Eriko Terasawa, Kiyoko Naito, Mayuko Niida, Yoshihiro Asano, Hisayo Okayama. (2023). Effectiveness of an educational intervention for postpartum depression in a Pre-Parent classroom. Open Journal of Nursing, 13, 455-486.
- 4) Eriko Terasawa, Yoshihiro Asano, Makiko Aoki, Hisayo Okayama. (2023). Comparison of fitness tracking using three different smartwatches during free activities in daily life. Open Journal of Nursing, 13, 625-640.
- 5) 和田秋花, 寺澤瑛利子, 井上佳則, 生田幸士, 浅野美礼, 岡山久代. (2023). 分娩シミュレータを用いた会陰保護実施時の会陰にかかる圧力・せん断力の経時的測定方法の検討. 看護理工学会誌, 11, 90-99.
- 6) 塩見咲良, 寺澤瑛利子, 鳥居万椰, 村上貴人, 落合陽一, 金澤悠喜, 岡山久代. (2024). 妊婦体験ジャケット着用時の姿勢・歩容・腰部負担感の分析-ヒール高による比較-. 看護理工学会誌, 印刷中.

<学会発表>

- 1) Eriko Terasawa, Hisayo Okayama. (2024). Relationship between concomitant symptoms associated with the menstrual cycle and autonomic nervous system activity in daily life. 27th East Asian Forum of Nursing Scholars, Hong Kong. China.
- 2) 寺澤瑛利子, 臼井淳美, 岡本るみ子, 松島みどり, 岡山久代. (2023).

産後女性における表情筋トレーニングの負荷量の検討. 第 11 回看護理工学会学術集会, 兵庫, 日本.

- 3) 平田珠梨, 青木真希子, 寺澤瑛利子, 岡山久代. (2023). 月経用品の使用感に関する文献検討. 第 11 回看護理工学会学術集会, 兵庫, 日本
- 4) 谷口愛深, 寺澤瑛利子, 岡山久代. (2023). 月経周期における月経随伴症状の主観的指標と学習時に計測されるスマートウォッチのストレス指標の関連性の分析. 第 11 回看護理工学会学術集会, 兵庫, 日本.
- 5) 塩見咲良, 鳥居万椰, 村上貴人, 寺澤瑛利子, 壹岐聡恵, 平田珠梨, 落合陽一, 金澤悠喜, 岡山久代. (2023). 妊婦体験ジャケット着用時の姿勢・歩容・腰部負担感の分析—ヒール高による比較—. 第 11 回看護理工学会学術集会, 兵庫, 日本.
- 6) 島田早菜衣, 青木真希子, 龜山千里, 寺澤瑛利子, 岡山久代. (2023). ローリスクの産後の母親を支援するための専門職によるアセスメントの視点や支援の課題についての文献研究. 第 11 回看護理工学会学術集会, 兵庫, 日本.
- 7) Eriko Terasawa, Hisayo Okayama. (2023). Investigation of heart rate variability calculated by optical pulse wave measurement for visualization of menstrual associated symptoms, Tsukuba conference, Ibaraki, Japan.

<その他>

- 1) 次世代研究者挑戦的研究プログラム採択

□看護科学学位プログラム 博士後期課程 2 年 臼井淳美

<学会発表>

- 1) 寺澤瑛利子, 臼井淳美, 岡本るみ子, 松島みどり, 岡山久代. (2023). 産後女性における表情筋トレーニングの負荷量の検討. 第 11 回看護理工学会学術集会, 兵庫, 日本.

< 競争的資金獲得状況 >

- 1) 臼井淳美. (分担者: 中島久美子). 2020~2023 年度, 基盤研究 C.
保育所における母乳育児支援プログラム開発と介入効果の検証.

< 公的な委員会 >

- 1) 日本母乳哺育学会 幹事, 教育委員

< 社会活動 >

- 1) 「いのちの教育」 2023.10.5 (埼玉県加須市立加須小学校 4 年生)
- 2) 「いのちの教育」 2024.2.22 (茨城県古河市立駒羽根小学校 4 年生)

□看護科学学位プログラム 博士後期課程 1 年 宇佐美絵理

□看護科学学位プログラム 博士後期課程 1 年 田邊里奈

□看護科学学位プログラム 博士後期課程 1 年 吉本光希

< 論文 >

- 1) Mitsuki Yoshimoto, Rie Wakimizu. (2023). Nurses' Perception of Privacy in the NICU and GCU: A Qualitative Descriptive Study. Open Journal of Nursing. 13, 113-129.

< 学会発表 >

- 1) Mitsuki Yoshimoto, Hisayo Okayama. (2023). The sound inside the incubator in the NICU: A literature review. Tsukuba Conference 2023. Tsukuba, Japan.

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 2 年 梅川茉優里

< 論文 >

- 1) 岡山久代, 梅川茉優里, 大嶋恵奈, 野口百菜, 平田珠梨, 藤岡朱音, 坂本菜生, 高橋健太郎.(2023). 大学生を対象としたプレコンセプションケア-大事な子宮を守ろう! HPV ワクチンキャッチアップ接種セミナーを開催して. 日本性感染症学会誌, 34(1). doi:10.24775/jjsti.R-2022-0005 印刷中

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 2 年 大嶋恵奈

< 論文 >

- 1) 大嶋恵奈, 金澤悠喜(2023). 産後ケア事業の実態とその効果に関する文献検討. 茨城県母性衛生学会誌, 41,1-7.
- 2) 岡山久代, 梅川茉優里, 大嶋恵奈, 野口百菜, 平田珠梨, 藤岡朱音, 坂本菜生, 高橋健太郎.(2023). 大学生を対象としたプレコンセプションケア-大事な子宮を守ろう! HPV ワクチンキャッチアップ接種セミナー-を開催して. 日本性感染症学会誌, 34(1) doi:10.24775/jjsti.R-2022-0005 印刷中

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 2 年 野口百菜

< 論文 >

- 1) 岡山久代, 梅川茉優里, 大嶋恵奈, 野口百菜, 平田珠梨, 藤岡朱音, 坂本菜生, 高橋健太郎.(2023). 大学生を対象としたプレコンセプションケア-大事な子宮を守ろう! HPV ワクチンキャッチアップ接種セミナー-を開催して. 日本性感染症学会誌, 34(1), doi:10.24775/jjsti.R-2022-0005 印刷中

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 2 年 平田珠梨

< 論文 >

- 1) 岡山久代, 梅川茉優里, 大嶋恵奈, 野口百菜, 平田珠梨, 藤岡朱音, 坂本菜生, 高橋健太郎.(2023). 大学生を対象としたプレコンセプションケア-大事な子宮を守ろう! HPV ワクチンキャッチアップ接種セミナー-を開催して. 日本性感染症学会誌, 34(1), doi:10.24775/jjsti.R-2022-0005 印刷中

< 学会発表 >

- 1) 平田珠梨, 青木真希子, 寺澤瑛利子, 岡山久代. (2023). 月経用品の使用感に関する文献検討. 第 11 回看護理工学会学術集会, 兵庫, 日本

- 2) 塩見咲良, 鳥居万椰, 村上貴人, 寺澤瑛利子, 壹岐聡恵, 平田珠梨, 落合陽一, 金澤悠喜, 岡山久代.(2023). 妊婦体験ジャケット着用時の姿勢・歩容・腰部負担感の分析ーヒール高による比較ー. 第 11 回看護理工学会学術集会, 兵庫, 日本.

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 2 年 藤岡朱音

< 論文 >

- 1) 岡山久代, 梅川茉優里, 大嶋恵奈, 野口百菜, 平田珠梨, 藤岡朱音, 坂本菜生, 高橋健太郎.(2023). 大学生を対象としたプレコンセプションケア-大事な子宮を守ろう! HPV ワクチンキャッチアップ接種セミナー-を開催して. 日本性感染症学会誌, 34(1). doi:10.24775/jjsti.R-2022-0005. 印刷中

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 1 年 小石川由起子

< 公開講座 >

- 1) 田中幸恵, 小石川由起子, 島田早菜衣, 永田友実, 谷口愛深, 岡山久代.(2023). プレコンセプションケア-「知る」ことは「守る」こと. T-ACT, ZOOM によるオンラインセミナー.

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 1 年 島田早菜衣

< 学会発表 >

- 1) 島田早菜衣, 青木真希子, 龜山千里, 寺澤瑛利子, 岡山久代.(2023). ローリスクの産後の母親を支援するための専門職によるアセスメントの視点や支援の課題についての文献研究. 第 11 回看護理工学会学術集会, 兵庫, 日本.

< 公開講座 >

- 1) 田中幸恵, 小石川由起子, 島田早菜衣, 永田友実, 谷口愛深, 岡山久代.(2023). プレコンセプションケア-「知る」ことは「守る」こと. T-ACT, ZOOM によるオンラインセミナー.

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 1 年 田中幸恵

< 公開講座 >

- 1) 田中幸恵, 小石川由起子, 島田早菜衣, 永田友実, 谷口愛深, 岡山久代.(2023). プレコンセプションケア-「知る」ことは「守る」こと. T-ACT, ZOOM によるオンラインセミナー.

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 1 年 永田友実

< 学会発表 >

- 1) 永田友実, 金澤悠喜, 岡山久代.(2023). 精神疾患を抱えた妊産褥婦に対する多職種連携の連携体制の文献検討. 第 7 回日本産前産後ケア・子育て支援学会. 東京, 日本.

< 公開講座 >

- 1) 田中幸恵, 小石川由起子, 島田早菜衣, 永田友実, 谷口愛深, 岡山久代.(2023). プレコンセプションケア-「知る」ことは「守る」こと. T-ACT, ZOOM によるオンラインセミナー.

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 1 年 谷口愛深

< 学会発表 >

- 1) 谷口愛深, 寺澤瑛利子, 岡山久代. (2023). 月経周期における月経随伴症状の主観的指標と学習時に計測されるスマートウォッチのストレス指標の関連性の分析. 第 11 回看護理工学会学術集会, 兵庫, 日本.

< 公開講座 >

- 1) 田中幸恵, 小石川由起子, 島田早菜衣, 永田友実, 谷口愛深, 岡山久代. (2023). プレコンセプションケア-「知る」ことは「守る」こと. T-ACT, ZOOM によるオンラインセミナー.

B. 発達支援看護学研究グループ

■准教授 涌水理恵

□看護科学学位プログラム 博士後期課程 1 年 佐々木啓太

< 論文 >

- 1) Keita Sasaki, Rie Wakimizu(2023). Development and validation of a Japanese version of The Quality of Discharge Teaching Scale-Parent Form (JQDTS-PF): A cross-sectional observational study. *J Pediatr Nurs*. 2023 Dec 28;75:133-139. doi: 10.1016/j.pedn.2023.12.018.
- 2) 涌水理恵, 谷口育, 佐々木啓太, 越智向日葵, 河野禎之(2023), 日本におけるリモートでのケアラー支援の現状とその機能に焦点を当てた国内文献検討, 日本遠隔医療学会, 20(1)
- 3) 佐々木啓太, 涌水理恵(2023), 小児病棟の看護師が行う退院指導に関する文献レビュー, 日本小児看護学会誌, 32, 59-65.

< 学会発表 >

- 1) 佐々木啓太, 涌水 理恵, The Quality of Discharge Teaching Scale 日本語版の作成及び 信頼性・妥当性の検討, 第 30 回日本家族看護学会学術集会/2023-09-09--2023-09-10

< 競争的資金獲得状況 >

- 1) 公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団(2022-2023), 「退院指導の質評価尺度(The Quality of Discharge Teaching Scale : QDTS) 日本語版の作成と評価」, 研究代表者: 佐々木啓太

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 2 年 並木瑠理江

< 論文 >

- 1) 並木瑠理江, 涌水理恵(2023), 終末期の親の闘病から死別後の子どもとその家族への支援に関する国内文献検討, *Palliative Care Research*, 18(4): 225-234.

< 競争的資金獲得状況 >

- 1) 公益財団法人 SGH 財団 第 4 回 SGH がん看護研究助成(2022-2024), 「がんで親を亡くした子どもの死別から現在までの体験に関する

質的研究 ―緩和ケア認定看護師の見地から終末期がん患者の家族ケアを考える―」, 研究代表者: 並木瑠理江

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 2 年 林理佳

< 学会発表 >

- 1) 林理佳, NICU/GCU において見学研修を経験した訪問看護師の医療的ケア児に対する看護上の課題, 第 33 回日本小児看護学会学術集会 / 2023-07-15--2023-07-16

< 競争的資金獲得状況 >

- 1) 公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団(2023-2024), 「NICU (新生児特定集中治療室) への入院を経て退院する医療的ケア児と家族への支援に関する全国実態調査」, 研究代表者: 林理佳

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 1 年 谷口育

< 論文 >

- 1) 涌水理恵, 谷口育, 佐々木啓太, 越智向日葵, 河野禎之(2023), 日本におけるリモートでのケアラー支援の現状とその機能に焦点を当てた国内文献検討, 日本遠隔医療学会, 20(1)

< 学会発表 >

- 1) Iku Taniguchi, Keita Sasaki, Himari Ochi, Rie Wakimizu, Yoshiyuki Kawano (2023). Literature Review Focusing on the Current Status and Function of Remote Carer Support in Japan. The East Asian Forum of Nursing Scholars 2024. 6-7 March 2024. Poster Presentation. (Hong Kong, China).

C. がん看護・緩和ケア研究グループ

■教授 水野道代

■助教 山下美智代

□看護科学専攻 博士後期課程 3 年 Umami Pratiwi Rimayanti

< 論文 >

- 1) Rimayanti U., Mizuno M., Kadar K., Madjid A., Sahraeny S., Effendy C., Setiyarini S., Mayers T.: Ensuring reliability and cultural validity of the Indonesian version of the Quality Of Life Index for patients with cancer: Res Nurs Health. (2023). DOI:10.1002/nur.22334

□看護科学専攻 博士後期課程 3 年 曾冬艷

< 論文 >

- 1) Dongyan Zeng, Michiyo Mizuno.: The Concept of spirituality in the context of Chinese patients with cancer: A scoping review. Journal of Advanced Nursing. First published:22 June 2023 DOI: 10.1111/jan.15741

□看護科学学位プログラム 博士後期課程 3 年 阿部愛子

□看護科学学位プログラム 博士後期課程 3 年 成尾美樹

□看護科学学位プログラム 博士後期課程 3 年 Chen Hong

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 2 年 戴兆叡

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 2 年 中川結衣

< 学会発表 >

- 1) 中川結衣, 山下美智代. (2023). 日本のがん患者における「突出痛」に関する文献検討. 第 17 回看護教育研究学会学術集会, 東京.

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 2 年 吳嘉慧

D. 国際発達ケア:エンパワメント科学研究室

■教授 安梅勅江

□看護科学専攻 博士後期課程 3 年 厚澤博美

□看護科学専攻 博士後期課程 3 年 松本宗賢

< 論文 >

- 1) 松本宗賢, J. Zhang, Y. Wang, X. Li, Z. Zhu, 安梅勅江(2023). 【生存科学の原点-「生命」から「生存」へ】生きがい創成型地域拠点における持続可能な社会参加の促進要因分析. 生存科学,34(1),67-79.
- 2) Z. Zhu, D. Jiao, X. Li, Y. Zhu, C. Kim, A. Ajmal, M. Matsumoto, E. Tanaka, E. Tomisaki, T. Watanabe, Y. Sawada, T. Anme(2023). Measurement invariance and country difference in children' s social skills development: Evidence from Japanese and Chinese samples. Current Psychology,42(24),20385-20396, DOI: 10.1007/s12144-022-03171-2
- 3) D. Jiao, X. Li, Z. Zhu, J. Zhang, Y. Liu, M. Cui, M. Matsumoto, A. A. Banu, Y. Sawada, T. Watanabe, E. Tanaka, T. Anme(2023). Latent Subtype of Cognitive Frailty among Multimorbidity Older Adults and Their Association with Social Relationships. Healthcare (Switzerland),11(13),DOI: 10.3390/healthcare11131933
- 4) D. Jiao, K. W. Miura, Y. Sawada, M. Matsumoto, A. Ajmal, E. Tanaka, T. Watanabe, Y. Sugisawa, S. Ito, R. Okumura, Y. Kawasaki, T. Anme(2023). Social Relationships and Onset of Functional Limitation among Older Adults with Chronic Conditions: Does gender matter?. Sultan Qaboos University medical journal,23(1),13-21, DOI: 10.18295/squmj.5.2022.035
- 5) Z. Zhu, C. Kim, D. Jiao, X. Li, A. Ajmal, M. Matsumoto, Y. Sawada, T. Kasai, T. Watanabe, E. Tomisaki, E. Tanaka, S. Ito, R. Okumura, T. Anme(2023). Patterns of Movement Performance among Japanese Children and Effects of Parenting Practices: Latent class analysis.

Sultan Qaboos University medical journal,23(1),22-31,D0I:
10.18295/squmj.1.2022.008

- 6) Y. Zhu, Z. Zhu, D. Jiao, X. Li, E. Tanaka, E. Tomisaki, T. Watanabe, Y. Sawada, M. Matsumoto, M. Cui, Y. Liu, T. Anme(2023).
Bidirectional relations between self-control and cooperation among Japanese preschoolers: A random-intercept cross-lagged panel analysis. Early Childhood Research Quarterly,64,139-147,D0I:
10.1016/j.ecresq.2023.02.010

< 学会発表 >

- 1) Z. Zhu, X. Li, M. Matsumoto, T. Watanabe, E. Tanaka, E. Tomisaki, T. Anme(2023). Diversities in children's social skill development trajectories: comparative longitudinal studies in Japan and China,第36回日本保健福祉学会学術集会,大阪,日本.
- 2) X. Li, Z. Zhu, M. Matsumoto, S. Li, M. Shigeeda, Y. Sun, Z. Zhang, J. Zhang, Y. Wang, T. Anme(2023). Development of a Co-Creative Well-Being (CCWB) Evaluation Framework for Promoting Well-Being for All at All Ages, 第36回日本保健福祉学会学術集会,大阪,日本.
- 3) X. Li, Z. Zhu, M. Matsumoto, S. Li, M. Shigeeda, Y. Sun, Z. Zhang, J. Zhang, Y. Wang, T. Anme(2023). Towards a Sustainable Society: Development of a Co-Creative Well-Being Scale, Tsukuba Global Scientific Week Conference, Tsukuba, Japan.
- 4) S. Li, M. Matsumoto, Z. Zhu, X. Li, M. Cui, Y. Liu, R. Zhao, J. Zhang, M. Qian, H. Gao, A. Imaizumi, M. Wang, Y. Huang, A. Apolna, Z. Zhang, S. Shrestha, T. Anme(2023). Longitudinal Study on the Relationship Between Social Interaction and Cognitive Function in Older Adults, Tsukuba Global Scientific Week Conference, Tsukuba, Japan.

- 5) A. Imaizumi, M. Matsumoto, Z. Zhu, X. Li, M. Cui, Y. Liu, R. Zhao, J. Zhang, M. Qian, H. Gao, S. Li, M. Wang, Y. Huang, A. Apolna, Z. Zhang, S. Shrestha, T. Anme(2023). Age-Specific Trends of the Index of Social Interaction in Japanese Village, Tsukuba Global Scientific Week Conference, Tsukuba, Japan.
- 6) Z. Zhu, X. Li, M. Matsumoto, T. Watanabe, E. Tanaka, T. Anme (2023). The relationship between parental physical discipline and children' s self-control: Evidence from Japanese and Chinese preschool sample, Tsukuba Global Scientific Week Conference, Tsukuba, Japan.
- 7) Y. Liu, D. Jiao, M. Yang, M. Cui, K. W. Miura, J. Zhang, M. Qian, M. Matsumoto, Y. Wang, Z. Zhu, X. Li, M. Wang, A. Apolna, Y. Graça, T. Anme(2023). Role of multifaceted social relationships on the association of loneliness with depression symptoms, Tsukuba Global Scientific Week Conference, Tsukuba, Japan.
- 8) M. Qian, X. Li, D. Jiao, M. Matsumoto, J. Zhang, Z. Zhu, Y. Zhu, Y. Liu, M. Cui, A. Apolna, Y. Graca, Y. Wang, T. Anme(2023). The relationship between oral function and mortality among Japanese older adults: The role of oral function, Tsukuba Global Scientific Week Conference, Tsukuba, Japan.
- 9) Z. Zhu, X. Li, M. Matsumoto, T. Watanabe, E. Tanaka, E. Tomisaki, T. Anme(2023). Preventing the vicious circle of parental physical discipline and low self-control of young children: Evidences from Japanese and Chinese sample, Systems and Empowerment Sciences for Lifespan Development, Ulaanbaatar, Mongolia.
- 10) X. Li, Z. Zhu, M. Matsumoto, S. Li, Z. Zhang, J. Zhang, Y. Wang, T. Anme(2023). Development of a co-creative well-being framework for promoting well-being for all at all ages: evidence from

multigenerational toy museum in Japan, Systems and Empowerment
Sciences for Lifespan Development, Ulaanbaatar, Mongolia.

E. 地域健康・公衆衛生看護学研究グループ

■教授 山海知子

■准教授 大宮朋子

■准教授 伊藤智子

■助教 井坂ゆかり

□看護科学学位プログラム 博士後期課程 3 年 石井あずさ(休学中)

□看護科学学位プログラム 博士後期課程 3 年 清水幹子

□看護科学学位プログラム 博士後期課程 3 年 戸津有美子

< 論文 >

- 1) Kaori Watanabe, Yumiko Totsu. (2023). Development of aids to relieve vulvodynia during the postpartum period. Global Health & Medicine

< 学会発表 >

- 1) 中理恵, 戸津有美子, 丸杉伊世梨, 渡邊香. (2023). 助産師が主催するイベント実施報告-第1回女性と子どものフェスティバル@代々木公園 - . 第7回日本産前産後ケア・子育て支援学会・学術集会
- 2) 戸津有美子, 網中眞由美, 渡邊香. (2023). 関東圏助産所のケア提供場面における血液・体液曝露と個人防護具着用の実態. 第31回日本医学総会・学術集会

- 3) 丸杉伊世梨, 渡邊香, 戸津有美子. (2023). 乳幼児をもつ母親からの助産師への相談内容; 「つどいのひろば」における子育て相談会の情報の質的分析. 第31回日本医学総会・学術集会

□看護科学学位プログラム博士後期課程2年 氏家寿美子

□看護科学学位プログラム 博士前期課程2年 高松栞(休学中)

□看護科学学位プログラム 博士前期課程2年 平城諒子

〈学会発表〉

- 1) 平城諒子, 大宮朋子, 山海知子, 福澤利江子, 中塚幹也. (2023). 日本における成人のトランスジェンダー当事者が直面した健康診断の際のポジティブ・ネガティブな経験. GID(性同一性障害)学会 第25回研究大会・総会, 沖縄

□看護科学学位プログラム 博士前期課程2年 Lim Kahan

□看護科学学位プログラム 博士前期課程1年 青柳沙佳

□看護科学学位プログラム 博士前期課程1年 佐藤若葉

□看護科学学位プログラム 博士前期課程1年 舟本侑香

F. 療養調整看護学研究グループ

■教授 日高紀久江

■准教授 目麻里子

■助教 阿部吉樹

■助教 工藤理恵

□看護科学学位プログラム博士後期課程 2 年 平栗智美

□看護科学学位プログラム博士後期課程 1 年 饒小妹

□看護科学学位プログラム博士後期課程 1 年 古田敦子

□看護科学学位プログラム博士前期課程 2 年 渡部幸

G. グローバルヘルス看護学グループ

■教授 柴山大賀

■助教 トゴバタラ・ガンチメゲ

■助教 福澤利江子

□看護科学専攻博士後期課程 3 年 金城一平

□看護科学専攻博士後期課程 3 年 中島久美子

□看護科学専攻博士後期課程 3 年 宮原めぐみ

□看護科学学位プログラム博士後期課程 3 年 見延充美

< 学会発表 >

- 1) 飯倉充美. (2023). 病児保育の送迎対応における病院および保育園と連携の実際と課題について. 第 33 回全国病児保育研究大会. 鹿児島. 日本.
- 2) 宮本翔平, 飯倉充美, 影山隆之. (2023). 精神科医療機関がない地域住民はメンタルヘルスの不調を抱えた時どの医療機関を受診しやすいのか? 第 72 回東北公衆衛生学会. 福島. 日本.
- 3) 飯倉充美, 宮本翔平, 増山晃大, 中澤佳奈子, 八斗啓悟, 松本彩花, 菅原大地. (2023). 日本語版 Reflective Practice Questionnaire (RPQ) の信頼性と妥当性の検討. 日本教育心理学会第 65 回総会. 才

ンライン.

- 4) 飯倉充美. (2023). 看護基礎教育における講義科目に Deep Active Learning を活用した教育方法の提案. 日本教育工学会 2023 年秋季全国大会. 京都. 日本
- 5) 宮本翔平, 飯倉充美. (2023). 身近な人を自殺で亡くした人は自殺念慮を抱くのか? —地域住民を対象にした横断研究—. 第 82 回日本公衆衛生学会総会. 茨城. 日本.
- 6) IHKURA Atsumi. (2023). The perception of a novice nurse: A comprehensive literature review on their professional perspective. The 14th International Nursing Conference. Seoul. South Korea
- 7) IHKURA Atsumi, Matsubara Yuka, SAITO Yumiko, SHIIBA Nami. (2023). Scoping review of factors that contribute to the job continuation of female firefighters. The 14th International Nursing Conference. Seoul. South Korea
- 8) MIYAMOTO Shohei, IHKURA Atsumi. (2023). Association between successful consultation experiences and suicide risk: findings from a cross-sectional study in Akita prefecture Japan. The 14th International Nursing Conference. Seoul. South Korea
- 9) 飯倉充美, 齋藤佑見子, 田村晴香. (2023). 女性消防吏員における職務継続に関連する要因についてのスコーピングレビュープロトコル. 第 43 回日本看護科学学会学術集会. 山口. 日本.

<競争的資金>

- 1) 飯倉充美. 2021 年～2023 年度. 日本学術振興会科学研究費助成事業 研究活動スタート支援. 新人看護師のワーク・エンゲイジメントと強化方略の検討.
- 2) 飯倉充美, 菅原大地, 齋藤佑見子, 川口孝泰. 2022～2026 年度. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(C). 女性消防吏員の職務継続に関する基礎研究.

- 3) 飯倉充美. 2023 年度. 一般社団法人日本看護学教育学会 研究助成. ICT を活用したディープ・アクティブラーニングが社会人基礎力に与える効果の検証－ARCS モデルを理論的基盤として－.
- 4) 高田大輔, 飯倉充美. 2022～2024 年. 公益財団法人日本生命財団 実践的研究助成 若手実践的課題研究助成. 僻地に住む独居高齢者に対する社会的交流促進のアウトリーチ支援.

□看護科学学位プログラム博士後期課程 3 年 Munkhbaatar Bolorchimeg

□看護科学学位プログラム博士後期課程 2 年 中田えいみ

□看護科学学位プログラム博士後期課程 3 年 椎葉奈子

＜学会発表＞

- 1) Ikura, A., Saito, Y., Matsubara, Y., Shiiba, N., Tamura, H. (2023). Scoping review of factors that contribute to the job continuation of female firefighters. The 14th International Nursing Conference, Seoul, Korea. November 2-3, 2023.

□看護科学学位プログラム博士後期課程 2 年 Enkhbayar Munkhtuya

＜学会発表＞

- 1) Munkhtuya, Enkhbayar., Ganchimeg, Togoobaatar., Taiga, Shibayama. (2023). Determinants of self-care behaviors among heart failure patients in Mongolia. September 26-27. Frontiers of Medical & Life sciences, Tsukuba conference 2023, Tsukuba, Japan. Poster

□看護科学学位プログラム博士後期課程 1 年 吉田多紀

＜執筆＞

- 1) 吉田多紀. (2023). 特集1 新人でもコレだけは知っておきたい糖尿病ケアの基本と最新情報 2023 3 糖尿病と合併症 8 そのほかの合併症とケア. 糖尿病ケア+. Vol.20.no.3.メディカ出版

- 2) 吉田多紀.肥後直子編著.(2024).第7章 糖尿病患者への支援③低血糖・シックデイ対策.④高齢患者への支援.糖尿病ケア+2024 年春季増刊.メディカ出版

< 社会活動 >

- 1) 日本看護協会看護研修学校糖尿病看護認定看護師教育課程 非常勤講師(科目名:糖尿病の治療法と生活調整・療養支援:セルフモニタリングと血糖パターンマネジメントの関係、科目名:血糖パターンマネジメント:血糖パターンマネジメントの概念、血糖パターンに影響する要因)
- 2) 「小児1型糖尿病の理解を深めましょう」(つくば市谷田部幼稚園保育士対象勉強会.2023.6.14)
- 3) 茨城県糖尿病協会サマーキャンプボランティア(2023.8.26-27)
- 4) 日本糖尿病教育・看護学会主催 糖尿病重症化予防フットケア研修ファシリテーターWeb.(2023.9.10)
- 5) 日本糖尿病教育・看護学会将来検討委員
- 6) 日本フットケア・足病医学会 評議員
- 7) 日本フットケア・足病医学会 社会保険委員

< その他 >

- 1) 吉田多紀.(2023).Aちゃんとの関りから学んだこと.第28回日本糖尿病教育・看護学会学術集会.心に残るストーリー.岡山.日本.(うらじゃ賞受賞)

□看護科学学位プログラム博士前期課程2年 小倉円香

< 論文 >

- 1) 小倉円香, 菅谷智一.(2023).マスク着用時の表情認知とパーソナル・スペースの関連.看護教育研究学会誌.15(1), 25-33.

< 学会発表 >

- 1) 小倉円香, 菅谷智一.(2022).表情およびマスク着用によるパーソナル・スペースの違い.第16回日本看護教育研究学会学術集会, 2023

年 10 月 22 日、東京、日本。

- 2) Ogura, M., Fukuzawa, R., Kimura, S., Miyachi, J., Togoobaatar, G., Shibayama, T., (2023). Ethical Considerations in Health-Related Research with Anthropological Approach, Tsukuba Conference. 2023.9.26-28.茨城，日本。

- 3) 小倉円香. (2023). 看護師の暗黙技術を解き明かすエスノグラフィー. 第 7 回 茨城テックプラングランプリ. 2023.11.4. 茨城，日本。

<その他>

- 1) まちなーす 運営メンバー
- 2) フリースクール TSUKUBA 学びの杜 スタッフ
- 3) 株式会社ソシエテ 学生インターン

□看護科学学位プログラム 博士前期課程2年 須田祥子

<講演>

- 1) Suda, S. (2023, June 27). *Potential of Faith Community Nursing in Palliative Care and Family Health Nursing*. 1st International Conference in Palliative Care and Family Health Nursing.

□看護科学学位プログラム 博士前期課程1年 田澤彩乃

H. 精神看護学・心理生活支援学研究グループ

■准教授 水野智美

■助教 菅谷 智一

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 1 年 坂場菜子

<論文>

- 1) 坂場菜子, 水野智美, 徳田克己.(2023). 茨城県つくば市の公共施設におけるバリアフリ状況－乳幼児とその保護者の視点に着目して－, 実践

人間学, 14, 1-10.

<学会発表>

- 1) 坂場菜子, 水野智美, 徳田克己.(2023). 都道府県庁、市役所のバリアフリーの問題点 2-関東-, 日本特殊教育学会第 61 回大会, 神奈川, 日本.
- 2) 水野智美, 坂場菜子, 徳田克己.(2023). 都道府県庁、市役所のバリアフリーの問題点 1-九州・沖縄-, 日本特殊教育学会第 61 回大会, 神奈川, 日本.
- 3) 坂場菜子, 水野智美.(2023). 発達障害傾向のある子どもにおける感覚異常に関する文献検討 2-周囲の気づきと支援-, 日本障害理解学会 2023 年大会, オンライン.
- 4) 坂場菜子, 水野智美.(2023). 発達障害傾向のある子どもにおける感覚異常に関する文献検討 1-感覚特性と日常生活での具体的な支援方法-, 愛知, 日本.

I. 看護科学専攻

■専攻長 山海知子

□看護科学専攻 博士後期課程 3 年 大出順

<論文>

- 1) 大森美保, 大出順, 佐藤亜月子, 志田久美子, 小薬祐子. (2022). 看護管理者が認識する看護の専門職性, 帝京科学大学紀要. 18(1).65-74.
- 2) 大森美保, 志田久美子, 大出順, 佐藤亜月子, 小薬祐子. (2022). コロナ禍における「基礎看護学実習Ⅱ」に関する学生の学び-代替実習としての学内実習を実施して-, 帝京科学大学教育・教職研究. 7(2).137-146.
- 3) 恋水諄源, 山本千明, 向山和加乃, 山本真世, 中村紳一郎, 大出順. (2023).倫理コンサルテーションチーム活動が医療従事者の倫理的行動

に与える効果，臨床倫理．11(1).印刷中

<学会発表>

- 1) 副枝恵美，大出順．(2022)．A 病院における看護倫理教育プログラムの効果の検討～2019 年と 2020 年の道徳的感受性と倫理的行動の比較～．日本看護倫理学会第 15 回年次大会．静岡，日本．

<社会活動>

- 1) 日本看護倫理学会 論文査読担当
- 2) 日本看護倫理学会 選挙管理委員
- 3) 第 31 回東京都看護協会東部地区支部看護研究実践報告会プログラム，講評

<その他>

- 1) 大出順．(2022)．放送大学 看護師国家試験支援ツール、国家試験過去問解説作成(4問担当)

IV. 大学院生支援

1. 学生数の状況

1) 入学者および修了者数(再入学生を含める)

	入学者数	修了者数	
		春学期	秋学期
博士前期	11 名	0 名	15 名
博士後期	7 名	2 名	0 名

2) 在籍学生数、うち休学者数 2024 年 1 月末現在

	在校生数	休学者数
博士前期課程 1 年	11 名	1 名
2 年	16 名	1 名
博士後期課程 1 年	7 名	2 名
2 年	4 名	0 名
3 年	23 名	8 名
その他		
研究生	0 名	
退学者	1 名	

2. 大学院生支援委員会の活動

1) 新入生オリエンテーションの実施

4 月 6 日(水)14 時 30 分より共同利用棟 B 講義室1において対面で実施した。

2) 新入生歓迎会の実施

COVID-19 のため中止とした。

3) 研究成果発表のための国内外学会等への参加派遣に伴う旅費支援の提案と支援対象に関する審議

12月20日〆切にて募集を行い、7名から7件の申請があった。2024年1月10日の教育会議にて審議した。

4) 看護科学専攻・学位プログラムにおける「学生支援対応チーム」^{※1)}としての活動

- a. 様々な問題を抱えた学生に対するメンタル面での支援を目的とした面談の実施：随時（できるだけ複数人体制での対応を心がけた）
- b. 休学および復学志望者への面接・相談：随時（大学院生支援委員長）
- c. 指導および就学困難なケースへの支援と面接等への同席：随時
- d. その他

5) 2023年度修了生アンケート調査の分析

2022年度に修了した大学院生を対象として実施されたアンケートへの回答者のうち、看護科学学位プログラム博士前期課程4名、人間総合科学研究科博士前期課程1名、人間総合科学研究科博士後期課程1名、計6名の回答を分析し、以下の改善点が明らかになった。

- ・学修、研究環境、教職員の関りについては概ね満足しており、学位プログラムのディプロマシーに則ったコンピテンスをある程度は身につけられたと修了生自身も感じていた。ただし、一部の学生には、ディプロマポリシーが十分に伝わっていなかったことから、今後、入学時及び進級時のオリエンテーションのみでなく、様々な機会伝えていく必要がある。
- ・1人の学生からは、大学への意見や要望を提出したが、十分に反映されているとは言えないという評価があった。要望の提出先がその他となっていたことから、調査結果からは、誰（どの部署）にどのような要望を出したのかを把握できないが、学生が意見や要望を反映されていないと感じた際に教員や支援室等に伝えられるようにし、意見や要望の提出先との意見交換ができる

体制を作っていく。また、学生から意見や要望があった際には、どのような意見について学位プログラム、大学としてどう考え、対処するのかを紙面に残る形で伝えていくようにする。

- ・学生食堂、書籍部などの厚生環境や奨学金やTA等の経済的支援について「どちらかと言えば不満」、「不満」という意見がみられた。学生に対して、大学の福利厚生施設等の情報、奨学金の周知をより積極的に行うとともに、研究費獲得に向けた支援を行っていきたい。
- ・就職に関して、大学院の教育があまり役に立たなかったと回答した者がいた。今後、さらに積極的に情報提供や支援を行っていく。
- ・回答をした修了生が少ないことが、問題であると思われる。回収率を向上させるため、修了式に時間をとるなどして回答をうながしていきたい。

今後も、修了生のアンケート調査を継続すると同時に、修了生の情報交換や交流の場を設ける準備や修了生を受け入れている職場の聞き取り調査などを行う予定である。

5)その他の活動

- a. TA、TF、RAの時間配分
- b. 人間総合科学学術院賞、看護科学学位プログラム長賞候補者の推薦順位付け

令和4年2月時の看護科学学位プログラム教育会議において、「看護科学学位プログラムの賞の申し合わせ」に則り、受賞候補者として指導教員より推薦された前期課程修了予定者4名、後期課程修了者3名から、人間総合科学学術院長賞候補として前期、後期各1名、また、看護科学学位プログラム長賞として前期2名、後期1名を選出し、会議出席者より同意を得た。
- c. 各種受賞候補者(学長賞、優秀TF賞、茗溪会賞、校友会賞等)の募集と順位付け)
- d. キャリア支援担当委員会委員として就職に関する情報の配信

- e. ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリア委員^{注2)}(大学院生支援委員長)としての活動

注1)「学生支援対応チーム」の役割(学生支援・自殺対策WG報告書(2011.5)から抜粋)《キーワードは、つながる、つなげる、つながりあう》

(1)保健管理センターなど各支援組織との連携の窓口になる。

・保健管理センター等から学生の件について連絡・相談があった場合の窓口になる。

(2)クラス担任や指導教員へのサポートを行う。

・クラス担任や指導教員から学生についての相談を受け、一緒に対応する。

(3)所属する学生の不適応状況の把握と教育組織としての対応を行う。

・履修申請状況や単位取得状況について支援室からなるべく早く情報を得る。

・休学や復学、退学、留年などについての状況の把握と個別の支援・対応策を検討し、実施する。

(具体的には、 a) 学業や研究がうまく進んでいない学生への対応 b) 復学のための具体的な支援策の構築 c) 留年等により担任が代わる場合には、新しい担任と連携を図る d) 休学や退学が頻発するような場合は教育組織として適切な対応を図るなど)

注2)平成28年4月より「障害者差別解消法」の施行を受けて、大学全体として障害者等に対する合理的配慮が必要となった。これを受けて、ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターが開設され、大学院生支援委員長が担当委員となっている。

3. 今後の課題

筑波大学は、平成23年度より学生に対して直接指導を行う指導教員等を支援すること並びに各教育組織において学生対応に係る対策検討等のために、各学群・専門学群、各専攻単位で「学生支援対応チーム」を設置している。看護科学専攻においては看護科学専攻長と大学院生支援委員から構成されている。今後は、これまでの活動を維持し、さらにより一層大学院生の学業や研究の完遂のための学生生活に関わる支援体制をチームとして取り組む形で強化していく必要があ

る。具体的には学生への支援対応チームからの一斉メールの配信、大学院生支援委員相互の情報交換を活発化し、事例に対して委員が個別に対応することはできる限り避け、複数人の教員によってチームで対応する方針を再確認する。今度の課題として、異なる文化的背景をもち日本語でのコミュニケーションが十分とは言えない留学生が今後増加すると考えられるため、支援体制をどのように構築するか、議論する必要がある。

特に、今年度は COVID-19 の感染拡大によって、緊急事態宣言が発令され、4 月 1 日より大学への入構が禁止されたため、新入生オリエンテーション並びに講義は、授業動画によるオンデマンド配信となり、新入生歓迎会も中止となった。春学期の間は大学への入構制限が継続され、新入生にとって一堂に会する機会を失い、指導教員や所属する教室の構成員とのやり取りのみとなり、精神的につらい日々を送っていたことは想像に難くない。秋学期から対面授業が中心となり春学期よりは落ち着いた感があるが、新入生、在校生ともに昨年度までの学生と比較して厳しい環境に置かれたことは明白である。このように心身の健康の危機的状態において、いち早く学生の抱えるストレスや想いを指導教員とともに受け止め対応していく体制作りが必要であるとする。

この他、次年度においても、TA,TF,RA の時間配分について学生が学業を全うするのに障害とならないよう継続して指導教員とともに調整を行うこと、訂正され点数化により客観化された選考基準に基づいて、看護科学専攻長賞並びに人間総合科学研究科長賞を選出することは継続する。今年度は COVID-19 のために中断したが、学会等への参加時の旅費支援は、次年度はできることなら再開したい。

大学院生支援委員会として、今後も大学院生が学業、人間関係等に悩みを抱えるも相談することを躊躇し、大学院生が学業や人間関係等の悩みを相談できず孤独に陥ることを予防するため、できるだけ迅速かつ適切な支援を今後も継続実施していく方針である。

V. 社会貢献と国際交流

国際交流

令和 5 年度は新型コロナウイルス感染症が「5 類感染症」に移行したことにより、対面での国際交流が久々に実現した。5 月には台湾成功大学(NCKU)からヘルスケア領域の教員が来訪し、ミニシンポジウム「Joint Mini-Symposium: National Cheng Kung University and University of Tsukuba」を開催した。また、今後の国際交流について話し合い、教員間での共同研究、大学院生の副査としての相互交流、大学院授業の担当などの可能性があることの共通認識を得た。

令和 6 年 2 月には、さくら招へいプログラムとして採択された「母子保健を中心とした看護分野における日本の先端技術について学ぶ体験交流」というテーマのもと、ガーナからの看護学生 4 名と教員 2 名の合計 6 名の招へい者と交流した。本学からは、看護学類生、看護科学学位プログラムの大学院生、看護教員が参加した。今後もガーナとの国際交流を進めていく予定である。

本学の協定校であるイリノイ大学(アメリカ)およびホーチミン市医科薬科大学(ベトナム)へは、短期留学として看護学類生を送り出した。次年度も同様に短期留学生の派遣を行うべく、派遣先の調整を行っているところである。